



MEET BAMBOO
PROJECT
OITA JAPAN

2026



面談をするコシノジュンコさんと木崎和寿さん

対話から生まれる 竹のアート

6年度から始まった「MEET BAMBOO PROJECT OITA JAPAN」。今年度は、国際的デザイナー・コシノジュンコさんの指導のもと、県内で活躍する6人の竹芸作家たちが新しい創作活動に挑戦しています。

8月初旬の市美術館。コシノジュンコさん、そしてこれまでメールやリモート会議でプロジェクトチームとの相談を重ねてきた6人の作家たちが一堂に会しました。「6人の竹芸作家とコシノジュンコさんの出会い[対極]」に向けての面談です。作家たちは、コシノさんから示された「対極」というテーマに沿って、それぞれ制作途中の作品の一部や試作品を持参。完成に向けて、密度の濃い対話を交わしました。

「粗」と「密」で表現した対極

前職はWebデザイナーという経歴を持つ近藤雅代さんは、別府市を拠点に伝統的な花籠や籠バッグなどを手がけています。実用的な工芸品を作ってきた近藤さんにとって、純粹



近藤雅代さん

なアートとしての作品作りは大きな挑戦です。

近藤 対極というテーマを、私は「粗」と「密」で表現しようと思っています。平皿のようなかたちの中に、編みの粗い部分と細かい部分があってグラデーションを作ります。

コシノ 夏らしいデザインが印象的。最終的なかたちはどう考えていますか？

近藤 ただの平面ではつまらないので、自然な竹のしなりを利用した歪みのあるかたちを目指します。

竹の特長を生かして、 湯気を表現

竹田市を拠点とする谷口倫都さん。その作品は、竹の曲線を生かして縦横無尽に編み込んでいく有機性が特徴です。今回はそれを発展させて、県のアイデンティティともいえる温泉の「湯気」から着想した立体に取り組んでいます。

コシノ ダイナミックなかたち！竹の特性をよく生かしていますね。

谷口 別府に住んでいたこともあるので、温泉文化をリスペクトしました。湯気のかたちでもあるけれど、



谷口倫都さん

ちょっとおじぎをしたようなフォルムにこだわっています。普段はここまで大きな作品を作ることはない。新しいことを始める、良いきっかけになっていると感じています。

父から子への継承をかたちに

6人の中で唯一の県出身者である木崎和寿さん。現在は豊後大野に工房を構える木崎さんの作品は人間の手をイメージしていますが、そこには作家自身が経験したライフイベントが反映されています。

木崎 じつは父親の手がモチーフ。さらに、その下にあるのは僕らの世代の手なんです。高齢になった父から最近田んぼを受け継いだこともあって、「残るもの」「受け取るもの」を一種の対極として捉えて制作しています。

コシノ すごく繊細で不安定ですら

あるかたちだけけど、そこが魅力的。
木崎 動きのある作品ですから、観客の目を一瞬で惹きつけるようなインパクトをかたちにしていきたいです。

アーティストが 竹で表現するもの



長谷川絢さん

美術家として活動する長谷川絢さん。「他者と接する中で生まれる感情」に関心を寄せ、制作を通してそれを読み解いているそう。そんな長谷川さんは、かつてコシノさんが妊娠した自身のお腹を見て「宇宙だと思った」というエピソードを、今回の制作の起点にしているといいます。

長谷川 带状に編んで構成した竹と、金属のパーツを取り合わせた彫刻作品です。照明の力も借りて「新しい認識が誕生する瞬間」を表現したいです。

コシノ ダイナミックな作品になると思う。編みの作業はどのくらい進んでいますか？

長谷川 40%ほどですね。展示に向けて、集中して作っています。

伝統工芸のその先へ

ファッション、アート、音楽の影響を受け、やがて竹工芸の世界にたどりついた池将也さんは、竹以外の素

材も組み合わせた立体を数多く手がけています。今回は和紙を使った補修技術である「一閑張り」を用いますが、なんとトイレトーパーを素材に選ぶそう。

池 竹工芸は「芸術作品」であるのに対し、トイレトーパーは「人間の排泄・不浄に使われるもの」であり「対極」にある素材。それを用いて抽象的な造形作品を作ります。ところどころ穴を設けていて、そこから内部の空間を覗くこともできます。
コシノ (試作品を覗いて) これはすごい！ 作品の中に宇宙がある。この感覚は初めてかも。

池 タイトルは「0'(ゼロプライム)」にする予定。伝統工芸が起点だけれど、その先にある新たな起点となる作品にしたいです。



池将也さん

アドバイスを受けて 作品を大きく変化

中学校の美術教師を経て竹工芸家に転身した青柳慶子さん。籠型の作品を数多く手がけてきた彼女にとって、今回はまったく新しいチャレンジと言えるでしょう。当初は二重構造の籠を作ることを想定していましたが、平たい状態で編み進めることになった新作はまるで顕微鏡で見る血管の連なりのようなのです。

青柳 アドバイスを受けて現在の



青柳慶子さん

かたちになりました。このかたちだと竹ひごのつながが見えてしまうので、絹糸で部分的に縫い合わせているのですが、それが自分と社会のあいだにできた傷を縫合しているような感覚が生まれています。

コシノ 観客にディテールを見てほしい作品になっていますね。最初は天井から吊るす構想だったけれど、壁に掛けて展示してみたい。
青柳 まさに自分もそう思っていました！

面談を終えて

6人との面談を終えたコシノさん。「みなさんの創造力で、まさか竹がこんなに多彩に変化するとは思っていませんでした」と嬉しい驚きの声をあげます。

コシノ 日本らしい素材の中で、私は竹にもっとも可能性を感じてきました。衣食住と言いますが、衣服や建築に使えるだけでなく、食べることもできる植物なんてなかなかない。人間の生活に欠かせない3つの要素に加えて、今回の取り組みでは「アート」という新しい要素が加わりますが、その未来的な可能性に惹かれています。展覧会がより楽しみになりました。

INFORMATION

展覧会は現在開催中です。ぜひご覧ください。



MEET BAMBOO PROJECT OITA JAPAN

6人の竹芸作家とコシノジュンコの出会

対極

市美術館 常設展示室1・2・4 11月15日(日)まで
開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

同会場では8人の新進竹芸作家が出品する「殻を破って一飛躍する8人の竹芸作家」も同時開催。

事業の詳細やイベントについては
ホームページをご確認ください。

ホームページ▶



Instagram▶



YouTube▶



市美術館 ☎554-5800